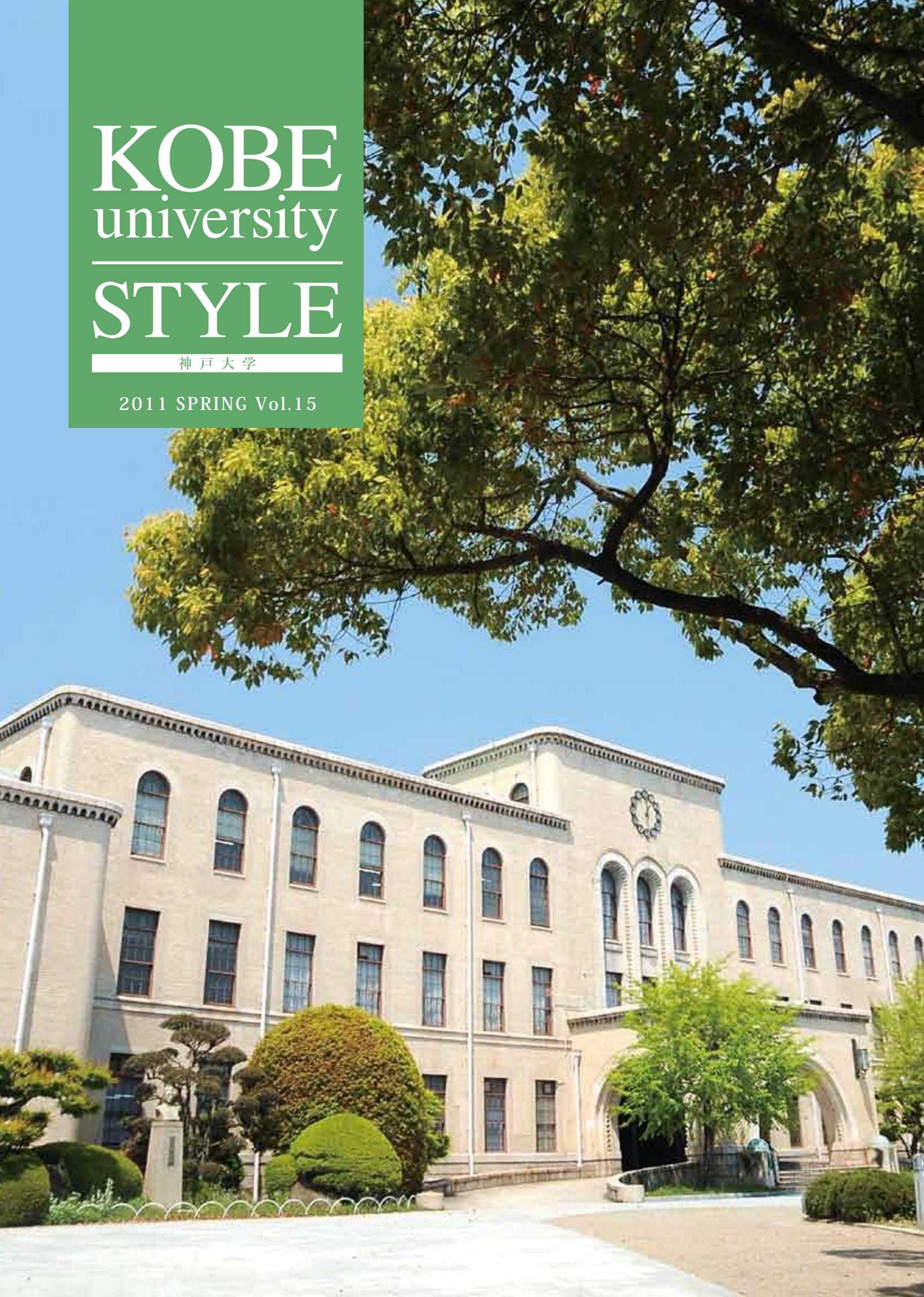


KOBE university STYLE

神戸大学

2011 SPRING Vol.15



KOBE UNIVERSITY STYLE



INDEX

特集 キャンパスライフ

神戸大学を満喫しよう	4
キャンパスカレンダー	6

特集 国際交流

グローバルリンク・フォーラム inバンコク	8
--------------------------	---

特集 海事科学部

海を知り、海に学ぶ、現代の「海援隊」	10
--------------------	----

同窓会・校友会・育友会

卒業生のビジネスリーダーとの懇談会 育友会地区支部会	16
《先輩登場》脇田晴子氏 東京オフィスリニューアル	17
第5回ホームカミングデイ	18
留学生ホームカミングデイ マレーシア神戸大学同窓会発足	19

保健管理センターだより

はじめませんか 心と身体の健康づくり・・・ 保健管理センター THPルームがOpen!	20
------------------------------------------------	----

歴史のひとこま

神戸大学のキャンパス〈その2〉 深江地区	22
----------------------	----

神戸大学の愛唱歌

神戸大学学歌	23
--------	----



WELCOME TO KOBE UNIVERSITY

神戸大学を満喫しよう!!

山と海、緑に囲まれた神戸大学。キャンパスでは、1年を通して様々なイベントが行われています。ゼミでの研究や課外活動など新しいことに熱中し、充実したキャンパスライフを過ごし、学生時代にしか手に入らないかけがえのない時間を手に入れてください。



神大生のキャンパスライフ

時間の使い方は自分次第

神戸大学の好きなおとこ。それは、ズバリ景色の良さです。特に海が見えるところが気に入っています。

僕は、生協学生委員会の一員として活動していますが、30人以上の大人数で一泊旅行をした新入生歓迎会は、学生時代ならではの貴重な体験だったと思います。今年は、自分たちが企画する歓迎会で新入生を楽しませたいですね。また、チュロスを販売した六甲祭も、忘れられない体験の一つです。大学時代は「自由な時間」がたくさんあります。やりたいことがあれば全部にトライしていくつもりで、キャンパスライフを満喫中です。

工学部2年
小松 剛士さん



さまざまな人との出会い

1年の頃は、国際文化学部のキャンパスでの授業が多かったのですが、2年になると専門的な授業が増え、発達科学部のキャンパスで過ごす事が多くなりました。発達科学部は理系と文系のコースがあるので、自分と違う考えを持った人と知り合うことができるので面白いです。

また、昨年はオープンキャンパスで配布した『神大 Navigator' 10』を生協学生委員会で作成しました。編集長として刊行に携わり、入試課職員の方との打合せも楽しかったです。多くの高校生に見てもらえると思い、やりがいを感じました。大学は、多くの出会いやさまざまな体験ができることが魅力だと思います。

発達科学部3年
中村 優花さん



体験することすべてが勉強

文学部のゼミで鹿児島の方言調査旅行に参加し、昔と今では微妙にアクセントが違うことを初めて知りました。このように、一つのことについて深く学ぶことが、大学の勉強であることを実感しました。課外活動では、漫画研究会に所属しています。自分の作品を出版社に応募し、声をかけていただいたことがとてもうれしく、今でも忘れることができません。

また、生協でのアルバイトも、貴重な社会体験の場となっていて、学ぶことも感じることも多いです。私にとっては、勉強以外の課外活動やアルバイトでの体験も、キャンパスライフには欠かせないものの一つです。

人文学研究科1年
吉田 康代さん



Campus Calendar

キャンパスライフを鮮やかに彩るイベントが、充実した学生生活を演出

入学式・新入生 オリエンテーション・ 新入生ガイダンス

毎年、神戸市中央区の神戸ポートアイランドホール（ワールド記念ホール）で開催されます。



神京戦

(神大・京大硬式野球定期戦)

昭和46年から行われている、伝統ある神戸大学と京都大学の硬式野球部の交流戦です。



深江祭

海事科学部(深江キャンパス)の大学祭で、例年、練習船「深江丸」体験乗船、クルーザーやカッター試乗、海事博物館・各実験室公開など海事系ならではのイベントや野外ステージ・模擬店等で盛り上がっています。平成23年度は5月21日(土)・22日(日)に開催されます。皆さん、足を運んでみてはいかがでしょうか。



三大学体育大会(旧三商大体育大会)

旧制商業大学の頃からの伝統により、神戸大学・一橋大学・大阪市立大学の間で毎年行われている体育大会です。

近畿地区国立大学体育大会

近畿地区の国立大学において、課外体育の健全な発展と大学相互間の親睦を図る目的で毎年開催される体育大会です。

西日本医科学生総合体育大会

西日本の医学部(医科大学)が参加し、毎年夏・冬に行われている体育大会です。医学部の学生にとっては、唯一の大きな大会であり、運動各部とも大会を目指し、少ない時間を割いて練習に励み、毎年優秀な成績を修めています。

実習船「深江丸」に乗る。



寮祭

住吉寮、女子寮において、例年6月から10月の間に開催されています。寮に寄宿する学生間の親睦を深めるために様々な行事が企画され、状況を呈しています。スイカ割り、ピンゴゲーム等があり、近隣住民とも交流をはかります。



神大生は「近畿体育」!



- 新入生歓迎祭
- 春季休業終了
- 入学式・新入生オリエンテーション・新入生ガイダンス
- 前期授業開始
- 健康診断



- 神戸大学創立記念日
- 深江祭



- 神京戦
- 寮祭
- 三大学体育大会



- 納涼祭(白鷗寮の夏祭)
- 前期期末試験
- 前期授業終了



- 夏季休業開始
- 近畿地区国立大学体育大会
- 西日本医科学生総合体育大会



- 夏季休業終了
- 学内ポートルース大会

CLOSE UP CAMPUS 課外活動編

KOBE UNIV. TOUCHFOOTBALL TEAM「ROOKS」が日本一に!!

東京ドームで開催された全日本王座決定戦「さくらボウル」で、神戸大学のタッチフットボールチーム「ROOKS」が、社会人王者の「ONEPACK」を破り見事優勝しました。「ROOKS」は、一時部員が激減し存続の危機に立ったこともあり、今回のチームワークで乗り越えてつかんだ優勝に、部員の喜びはひとしおのこと。今後も活躍が大いに期待されます。

「ROOKS」田中美幸さんコメント

私は、タッチフットボールに出会い、普通の大学生活では味わえない熱くて濃い時間を過ごしていること、また、一生ものの仲間と貴重な体験を重ね、人間的にも成長できたことを幸せに思います。ROOKSやタッチフットの魅力は言葉では伝えきれませんので、ぜひ実際に体験してほしいです!



仲間とつがんだナンバー1!!



CLOSE UP CAMPUS 留学編

皆さんの海外留学を応援

大学在学中に海外へ留学し、異文化への理解を深め、国際性を身につけませんか。神戸大学では、さまざまな留学・海外研修プログラムを準備し、皆さんの海外留学をバックアップ。中でも1学期間または1学年間の交換留学プログラムは、単位互換が可能なことや奨学金制度も利用できることから大人気。毎年70名以上の学生が世界中の海外協定校で学習・研究していますよ。詳細はHPで。(留学生課)



夏休みを満喫しよう!!





毎年アーティストライブや
有名人の講演会があります♪



六甲祭

全学的な大学祭として毎年11月に開催され、六甲祭実行委員会が中心になって、様々な企画が催されています。学生の学術・文化活動の発表の場として、また、教育・スポーツ活動などの相互交流の場として、意義のあるものとなっています。

平成23年度は11月12日(土)・13日(日)に開催されます。

三大学ゼミナール

旧三商大の法、経済、経営、商、社会学部系のゼミの間で行われる討論会です。

リーダーズトレーニング

課外活動団体の次期リーダーを担う部員が集まり、リーダーのあり方について考える研修会です。

積極的に参加しよう!



ボランティア講座

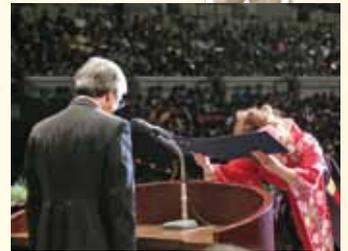
神戸大学では、1995年の阪神・淡路大震災以来、学生ボランティア活動が盛んです。環境・災害・貧困・差別などそれぞれの問題を抱えた人びとと関わり、敬意を持って接することで社会の仕組みを学びます。この経験を通じて、今後の自分の生き方について考えさせられることも多いのではないのでしょうか。興味のある方は、「学生ボランティア支援室」まで。

涼涼の卒業：
いろんな思い出を胸に：



学位記授与式

博士学位記授与式は、神戸大学出光佐三記念六甲台講堂にて。学位記授与式(卒業式)は、神戸市中央区の神戸ポートアイランドホール(ワールド記念ホール)で開催されます。



10
October

- 後期授業開始
- 名谷祭
(医学部保健学科の大学祭)
- 大倉山祭
(医学部医学科の大学祭)



11
November

- 六甲祭
- 厳夜祭



12
December

- 三大学ゼミナール
- 冬季休業開始



1
January

- 冬季休業終了
- リーダーズトレーニング
- 後期期末試験



2
February

- 後期授業終了
- ボランティア講座



3
March

- 学位記授与式
- 春季休業開始
- 全国医学生ゼミナール

CLOSE UP CAMPUS 就職編

キャリアセンターに行こう!

卒業後の進路選択には万人共通の正解はありません。人間の数だけ答えがあるといってもよいでしょう。悔いのない進路選択の秘訣、それは、大学で教養と専門の多様な知識を蓄え、豊かな趣味をもち、多くの友人と語り、留学や部活などいろいろな経験を積み、失敗を恐れず行動する能力を身につけることです。そして、ぜひ新聞と本を読んでください。

キャリアセンターは、上級生向けの就職活動などへの支援だけでなく、1年生、2年生向けのキャリアガイダンスや全学キャリア科目(総合科目Ⅱ木5限)等のキャリア教育を実施し、キャリア相談にも応じていますので、大いに活用してください。

(キャリアセンター)



神大では、みなさんが楽しいキャンパスライフを送れるよう、充実した奨学金制度や留学制度が用意されています。また、ボランティア活動など学生主体の活動も活発で、貴重な大学時代を有意義に過ごせる環境があります。なにより、神大には素敵な仲間と素晴らしい景色が待っています。それでは、みなさん楽しい学生生活を送ってください。



「神戸大学グローバルリンク・フォーラム in バンコク」をタイで開催



シェラトンホテル ボールルームでの福田学長記念講演会

国籍・地域、専門を超えた KU International Alumni-Net

神戸大学では、2001年から留学生センターを中心に、海外在住の卒業生(日本人/留学生)と本学との絆をより深めるために「海外同窓会ネットワーク構築事業(KU Int'l Alumni-Net)」に取り組んできました。2011年1月現在、海外8か国/地域(韓国、台湾、中国、ベトナム、インドネシア、タイ、マレーシア、シンガポール)に海外同窓会を拠点とするネットワークがあります。また、中国には「神戸大学中国事務所」があり、欧州には、EUの拠点であるブリュッセルに「神戸大学ブリュッセルオフィス」があります。2011年3月には、ブリュッセルオフィスを基点に欧州にも同窓会が発足の予定で、国際的な知の人材のネットワークが一段と拡大強化されることになります。

大きく踏み出した国際交流推進事業 — 神戸大学グローバル・リンク事業 —

「海外同窓会ネットワーク構築事業」が10年目を迎えるにあたり、新たに「神戸大学グローバル・リンク事業」がスタートしました。同事業の目的は、国際的な知的情報リソースである海外同窓会ネットワークとより積極的に連携協力して、本学そのものが海外に赴き、学長が自ら「神戸大学ブランド」をアピールして本学のプレゼンスを高めることです。その第1回目として、「神戸大学グローバルリンク・フォーラム in バンコク」(2011年1月22～24日(主催:国際交流推進本部/留学生センター))がタイで開催されました。今回は、タイの学術交流協定校と連携し、「タイ神戸大学同窓会」との共催で、本学における学術研究の成果や教育研究活動を広く発信するとともに、研究者・学生交流の促進を図る大きなきっかけを創ることができました。

DAY1— 福田秀樹神戸大学学長記念講演会・学長懇談会 神戸大学同窓会 in バンコク — FACE to FACEのつながりを大切に —

初日の第I部は、シェラトンホテルのボールルームにDr.Ampol Senanarong (タイ国王特別顧問)閣下をはじめ、本学の協定大学からも学長をはじめ代表の方々をお招きしました。同時に日本国側からは関係諸機関を代表して、在タイ日本大使館の小島誠二特命全権大使にもご臨席いただきました。中村千春理事・副学長の開会の挨拶を受けて、Dr.Ampol

Senanarong 閣下が温かくも格調高い祝辞を述べられました。その後、協定大学からもご祝辞をいただき華やかな雰囲気の中にオープニングセレモニーの幕が開かれました。

次に福田秀樹神戸大学学長記念講演会: 演題『神戸大学—グローバルエクセレンスを目指して』が行われました。福田学長は、海外で活躍する神戸大学卒業生の活躍を称え、本学の国際性についても強調されると共に、リーディング大学としての教育研究についてもご自身の研究を踏まえて講演をされました。続いて、戦後、本学にとって最初の留学生となる Praphan Hetrakul 氏(「タイ神戸大学同窓会」名誉会長/タイヤクルト(株)会長、1958年経営学部卒)がすべての卒業留学生を代表して、『神戸大学と私』という演題で記念講演をされました。Praphan 氏は、50余年前に本学で学んだ経営学の原点をタイヤクルト(株)の経営にもすべて活かし成功を取めたことを披露されました。帰国後も母校との絆を大切に思い恩師に対する感謝の気持ちが溢れる感動的な講演でした。

その後のパネルセッション「福田学長を囲んでの懇談会: グローバル時代における大学と海外ネットワークとの連携」では、各国・地域から5名のパネリスト: Somkiti Synsukpermpoon 氏(「タイ神戸大学同窓会」会長)・Thin Aye Aye Ko 氏(「THINMYNMAR LANGUAGE CENTER」校長)・呉美英氏(「韓国総同門会」幹事)・森田貴氏(「中国神戸大学同窓会」上海地区会長)・Loong Kok Hong 氏(「マレーシア神戸大学同窓会」会長)が学長らと共に登壇しました。各パネリストからは母国での活動報告、大学に望むことなどについて発表があり、中西泰洋留学生センター長がコーディネーターとなり、活発な意見交換が行われました。

本学は、開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材の育成を目指していますが、卒業生たちと福田学長、中村副学長、安藤学長補佐とのパネルセッションでもその心意気を感じられました。

第II部は、「タイ神戸大学同窓会」主催による「神戸大学同窓会 in バンコク」で、安藤幹雄学長補佐の祝辞の後、「学友会」前副会長の島一雄氏による乾杯の音頭で神戸



「神戸大学と私」という演題で記念講演を行う、タイ神戸大学同窓会名誉会長 Praphan Hetrakul 氏



神戸大学同窓会 in バンコクで旧交を温める

大学ブランド『茜彩』が紹介され、本学初めての世界同窓会が始まりました。たとえ初対面であっても、話してみれば、国・地域を超えてつながる KU International Alumni-Net の醍醐味、そして旧交を温める喜び。一人ひとりのつながりも大切に、終始和やかな雰囲気の下、余韻を残しつつ会がお開きとなりました。

DAY2 - 国際学術公開シンポジウム

— 人類共通の地球規模の研究発表 —

二日目は、Praphan 氏のご厚意でタイヤクルト(株)本社の大会議室で、英語による「国際学術公開シンポジウム -Towards Sustainable Development of Our Societies-」が行われました。同シンポジウムのコンセプトは、人類共通の持続可能な開発のための教育、並びにタイで最も関心を集める再生可能エネルギー開発を中心としたトピックについて日タイの著名な研究者に集まっていたいただき、連携を深めることでした。

福田学長による挨拶の後、フィンランド出身の Mikko Cantell 氏 (UNESCO Bangkok, ESD プログラム専門官) を迎えて「アジア・太平洋地域における ESD の現状と課題」について基調講演をしていただきました。続いて神戸大学における ESD 領域の第一人者である松岡広路教授 (人間発達環境学研究所) による講演「ESD スタディツアー推進プロジェクトの概要と課題 - プラットフォーム学習論の実質化をめざして -」があり、それを受けて、本学とも長年共同研究をされている Poonpipope Kasemsap 教授 (カセサート大学) による講演「International Training Program : Education for Sustainable Development」が行われました。

ブレイクを挟んで後半の研究発表は、バイオマス、燃料等に移り、Warawut Chulalaksananukul 教授 (チュラロンコン大学) による講演「Biofuels by Biocatalysts」、そして、本学の統合バイオリファイナリーセンター長でもある、近藤昭彦教授 (工学研究科) による「バイオマスからの燃料・化学品生産」の講演と続きました。最後に、シンポジウム全体のまとめとして、中村理事・副学長が「Science and Technology for Sustainable Society」と題するスピーチで、持続可能な社会の実現には科学と技術が必要であることを強調されました。



講演を行う松岡広路教授
(人間発達環境学研究所)



講演を行う近藤昭彦教授
(工学研究科)

今回の学術公開シンポジウムでは、日タイでの研究成果が同時に発信でき、新たな共同研究に発展する可能性にもつながる意義ある一日となりました。

DAY3 - 神戸大学フェア

— 神戸大学ブランド、知の循環をめざして —

三日目は、本学と全学協定を締結しているタマサート大学の全面的な協力を得て、タープラチャンキャンパスと遠く離れたランシットキャンパスをビデオカンファレンス方式でつないで「神戸大学フェア」(留学説明会)を開催しました。まず、福田学長の挨拶に続いて、中村理事・副学長による「神戸大学の紹介」がありました。続いてのオープンレクチャは、「Reform and performance of railway industry」と題して柳川隆教授 (経済学研究科) と、「Construction of consolidated bioprocesses for production of biofuels and chemicals」と題して近藤昭彦教授 (工学研究科) が講演会場のタイの学生とモニターの向こうのタイの学生に語りかけるという形式で行い、その講義内容もタイという地域的特性に相応しいものでした。その他、学生たちが多く集まる場所では、在タイ日本大使館、日本学生支援機構 (JASSO バンコク事務所) の協力を得て、各関係部局のブースを設け、情報提供や個別面談を行いました。本学から交換留学生 (国際文化学部) としてタマサート大学に留学中の 2 人の学生にも手伝っていただき、お陰で多種多様な角度から本学の情報を提供できました。神戸大学が単独で協定大学に赴き神戸大学フェアをするのも初めての試みでした。タイの優秀な学生を迎え、交流活動がますます盛んになることを期待しています。



神戸大学フェア ブースでタマサート在学学生へ神戸大学について話をするタイ人卒業生

KUGL (神戸大学グローバル・リンク事業) の発展を願って

今後も「神戸大学グローバル・リンク事業」を通して国際的な知的情報リソースである海外同窓会ネットワークとより積極的に連携協力して、神大の特徴を活かした質の高い国際交流推進事業活動を推し進めていくつもりです。

今回の KUGL-Forum については、タイの全国紙「Daily News」(1/27/2011) の第一面に、日タイ両国の旗をバックに、タイ語で「学問以上の大学 “神戸大学” タイ日関係の架け橋」という賞賛の言葉が本学のロゴマークと共に掲載され、第三面にも同フォーラムを高く評価する記事が続きました。

国際交流推進本部 副本部長
特命教授 瀬口 郁子



海×科学=?



神戸大学海事科学部

海を知り、海に学ぶ 現代の「海援隊」

本学がキャンパスを構える神戸は、古代の「津の国」の時代から、瀬戸内海航路のターミナルとして、重要な役割を果たしてきた港湾都市です。1868年の開港後は「国際性」が加わり、世界有数の国際港湾都市として発展してきました。その特徴は、大正時代に「商業」と「商船」の2つの高等学校があったことから窺われます。「海事科学部」は後者の流れを汲んでおり、私たち人類が「海」を活用しようとする際に現れる多岐にわたる諸問題を、自然科学から社会科学までの幅広い学問分野を連携させて、科学的に解決しようとするユニークな学際的分野です。

教育面では、前身である「川崎商船学校」やそのルーツとも言える幕末の「海援隊」における「士魂商才」の精神を引き継ぐとともに、「海洋基本法」とそれを受けた「海洋基本計画」（平成20年）ののっとり、「多岐にわたる分野」について「総合的な視点を有して事象を捉えることのできる幅広

い知識や能力を有する者」を育成していきたいと考えています。卒業生の大半は大学院に進学しています。また、およそ20%は国際海運会社に就職しています。大学院終了後あるいは学部卒業後には、商社、銀行、物流・ロジスティクス、IT関連、港湾・造船、自動車、重工業、電機、化学といった様々な分野で活躍しています。

近年の海事社会を取り巻く状況はめまぐるしく変化しています。ただ単に物を運ばばよいというのではなく、安全で効率的な海上輸送システムの確立や運航管理、省力化システムの開発、エネルギー利用と海洋環境保全、国際法の遵守など、様々な課題を抱えています。今回の特集では、私たちがチャレンジしている研究の一部を紹介致します。このような「海に関わる総合科学技術」から、世界との接点が見えてくると思います。

大学院海事科学研究科長
小田 啓二

限りない可能性を秘める海と科学の融合

海事科学部では、海に関する研究を通して、エネルギー問題、環境問題、輸送問題など、現代社会におけるさまざまな課題にアプローチしています。

「廻れ洋上の大車輪」

准教授 おおさわ てるお 大澤 輝夫

地球環境問題とエネルギー問題の両方の対策として、現在欧州を中心にクリーンでエネルギーの自給が可能な洋上風力発電の導入が急速に進められています。今のところ海底に風車の基礎を設置する着底型風車が主体ですが、基礎研究としては浮体型風車やセーリング型風車の研究も進められています。それらが実現すれば、水深が急に深くなる日本沿岸でも洋上風車の導入は急速に進むであろうと考えられています。我々の研究室ではそうした将来に備え、洋上観測や数値シミュレーション、人工衛星データにより、風力エネルギー資源量の調査及び風況予測手法の開発を行っています。



「海の中の微生物たちの素晴らしさ」

助教 たなべ しょうこ 田辺 祥子

「赤潮をなんとかしたい!!」。出身地である滋賀にある琵琶湖、その環境悪化を改善したいと強く思った小学生時代から、随分と長い年月が経ちました。そして、現在。私は、海事科学部で「海の環境保全」を大きなテーマとして、生物学的なアプローチから研究に取り組んでいます。「今まで発生しなかった赤潮がなぜ今年から発生しはじめたの?」「なぜ、海が汚染させると改善に時間を要するの?」「生物を使って汚い水をきれいにできないの?」。海が抱える問題、解決すべき問題は非常に多く、これらと格闘する毎日です。



「港湾ターミナルの上手な使い方」

准教授 にしむら けいこ 西村 悦子

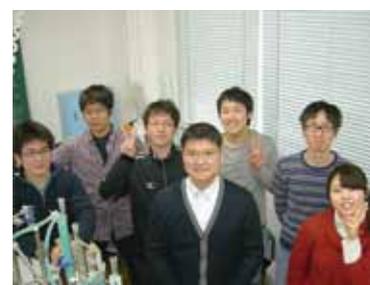
貨物輸送における海と陸を繋ぐ機能を持つ港湾コンテナターミナルを対象に、その運用方法を工夫する研究を行っています。ターミナルの評価は一般に、どれだけのコンテナを取扱えるかにあり、特に取扱貨物量の多い大規模な港では、作業がスムーズに行われるためには、様々な部門での複雑な意思決定が必要とされています。そこで私の研究テーマは、こうした意思決定問題に対して、数理計画、シミュレーション技法、統計解析等を利用して、現実起こりうる問題に対し、どんな工夫をすれば、どれだけの効果があるかを明らかにしています。



「やさしく包む、賢く包む」

准教授 くらおが こうじ 蔵岡 孝治

どのような商品であっても輸送の際には必ず包装されており、その包装材には商品を物理的、化学的に保護し品質を維持するという機能が期待されています。このような期待に答えるために、私は、酸素や水蒸気を透過させず、酸化や吸湿から商品を保護する機能を持った新規材料の研究を行っています。現在、有機-無機ハイブリッド化技術を用いて、環境にやさしい材料として注目されている生分解性材料などとガラス・セラミックスなどの無機化合物を分子レベルで混合することにより、高い保護性を有する新規材料の開発に研究室の学生と共に取り組んでいます。





研究の可能性を広げる
他分野との連携

し お た に し げ あ き
塩谷 茂明

自然科学系先端科学融合研究環 重点研究部 教授

【略歴】1976年 神戸商船大学大学院商船学研究科修士課程修了/ 1976-91年 広島商船高等専門学校勤務/ 1991-2002年 長崎大学水産学部勤務などを経て、2002年より現職

【主な受賞歴】2005年 日本航海学会論文賞 他

【社会活動など】日本航海学会会員/日本海洋学会会員/海洋気象学会会員/日本数値流体力学学会会員 他多数

私が現在取り組んでいる研究テーマの一つである「輸送の三原則」は、これまで個別に研究対象とされていた国際海上輸送の三原則「安心・安全」「経済性」「環境保全」を統合し、自然科学と社会科学系分野が連携して行う、今までにない海上輸送システム創出のための研究です。各分野の研究者がチームを組み、それぞれの研究結果を一つに合わせるという発想が新しいということで、平成20年度文部科学省の特別教育研究推進に採択されました。

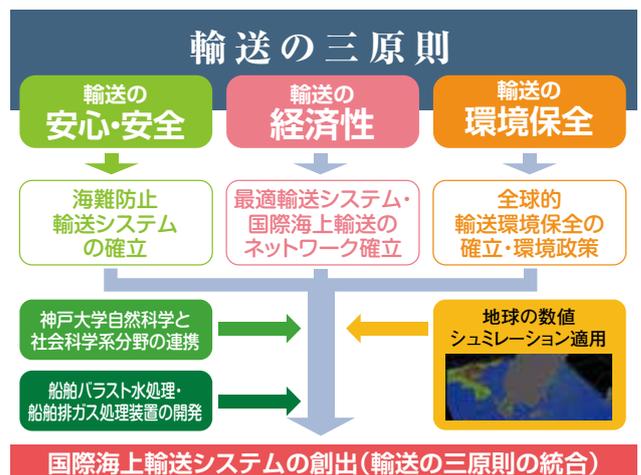
研究者は、自分の研究分野に対する知識は誰よりも深いものの、その他の分野に関しては知らないことも多いのですが、その常識の壁を乗り越え、自分の研究と他分野の研究を結び付けてみると、今までとは全く違った視点での研究へと可能性が広がったのです。

このような研究の形を発想できたのは、私のこれまでの経験が大きいと思います。本校(当時：神戸商船大学)を卒業した後は、国立広島商船高等専門学校で15年間、教鞭をとりました。それから縁あって、長崎大学の水産学部で11年間、流体力学と航海学研究に携わり、船体周りの流れの計算や波の数値計算などの研究を重ねてきました。水産学部は漁業についての研究機関と思われがちですが、その研究分野は実に幅広く、生物(魚類)そのものの研究をしている先生もいれば、食品加工に大変詳しい先生など、実用的な研究が行われており、私も大変刺激を受けて、自分の研究に打ち込むことができました。

その長崎大学で、仔魚を効率的に育てる養殖方法に関する共同研究の機会に恵まれました。実は、稚魚を入れる水槽の中に少しの流れを作ると、仔魚の致死率がぐっと下がりますが、この研究を行うためには、生物学と流体力学両面からの考え方が必要でした。この経験によって、異なった研究分野を一つに合わせると、新たな研究のタネが生み出されるということに気付かされたのです。その気付きが、「輸送の三原則」という画期的な研究につながったように思います。

船が一隻沈むと、その損害は何十億にもなりますから、海上輸送に安全性が求められることは言うまでもありません。ただ、安全だからいいというわけではなく、経済的メリットも考える必要がありますし、地球環境のためには、船から出る排ガスを少しでも抑えた輸送が望まれます。ここから考えられることは、安全、経済、環境の分野において、それぞれの専門家が個別に研究したことを一つに結び付けた研究こそが、理想的な輸送に関する研究であるということです。ただ、研究者は概して个性的ですので、複数人での研究を苦手とする人も多いようですが、高専で教鞭をとっていた経験からか、私は人と一緒に学ぶことに抵抗が少ない、研究者には珍しいタイプのような気がします(笑)。一つ一つを積み重ねる「+(プラス)の研究」を、他分野との連携による「×(かけ算)の研究」に変えてみると、学問や研究の可能性がさらに深まることは間違いありません。これからもこのような新しい研究の形にチャレンジしていきたいですね。

大学時代を振り返ると、とにかく基礎勉強を積み重ねていた記憶があります。皆さんも、自分が知りたいテーマを見つけること、そして、学ぶことへのこだわりをもって、有意義な学生時代を過ごしてください。



あきらめない気力

それが新たな発見を生む

にし おか とし ひさ

西岡俊久

構造強度シミュレーション工学研究室 教授

【略歴】1970年商船学士取得(神戸商船大学)、1972年工学博士取得(東京大学)、名誉博士号受領(DOCTOR HONORIS CAUSA、ルーマニア国立ガラチ大学)、米国ジョージア工科大学、研究員、客員助教授、客員教授(1978~1984年)、1991年神戸商船大学教授、2003年より現職
 【主な受賞及び栄誉等】約50件、神戸大学初の受賞2件：文部省研究基金重点設備費(1億円)及び文部大臣科学賞、日本人で3番目の受賞2件：実験力学国際会議総合講演賞及びThe M.HETENY AWARD、国際的大賞3件：The K.WASHIZUMEDAL、実験力学国際会議総合講演賞及びThe M.HETENY AWARD

私はもともと九州の片田舎の小さい漁村の出身ですので、泳ぐことや船には慣れ親しんでいたのですが、中学生の時「帆船日本丸」の写真を見て、何てかこいいんだらう…と憧れを持ちました。思えば、それがこの世界への入口だったように思います。

日本丸への憧れも手伝って、当時の神戸商船大学機関学科に入学したわけですが、これが大正解でした。理工系の教養学部といわれるほど、学習の幅が非常に広く、船の実習はもちろん、部品の作り方まで工作実習で学べましたから、基礎的な知識が随分身に付いたように思います。卒業後は大手重工業メーカーに就職するつもりでしたが、遠洋航海実習を終え、神戸港に帰港した朝に教官のミスで事故に巻き込まれ、全身やけどを負ってしまったのです。結局、ケガの状態がひどかったために企業勤務をあきらめ、運輸省の航海訓練所研究調査部に所属し、東京大学の原子力工学科で研究を行うという道を選択しました。人生の歯車が狂ったようにも思いましたが、実はこの転機が、今でも師と仰ぐ矢川元基先生との出会いにつながり、私の人生で最大の幸運となりました。私の計算力学に関する研究人生も、ここからスタートを切ったのです。

私の研究テーマである破壊力学は、第二次世界大戦中の全溶接商船の脆性破壊の防止策として生まれ、種々の分野に発展してきました。特に動的破壊力学は、物質の壊れる限界点を導き出す最先進破壊力学の一つであり、船の安全だけではなく、原子炉、自動車などの安全開発にも応用でき、それが人の安全を守ることに繋がっています。一般に、研究手法(科学的方法)は次のように分類することができます。(i) 実験的方法(第一の科学)、(ii) 数学的方法(第二の科学)、(iii) 計算的方法(第三の科学)、(i) - (iii) の長所を組み合わせる新手法を作る (iv) ハイブリッド科学(第四の科学)。ちなみに、私が提唱しているのは、第四の科学になります。破壊の動力学全ての科学で、世界的に重要な業績を挙げている研究者は他にいないため、破壊力学の

分野で世界的権威と称されることが多くなっています。当研究室の成果として、まず挙げることができるのは、複雑な動的破壊経路の数値予測を可能にするため、デローニー自動三角分割に基礎をおく「移動有限要素法」を開発したことです。この方法は、極めて複雑な動的破壊経路の精密な予測が可能な数値解析手法であり、世界最先進の動的破壊シミュレーション手法です。また、動的破壊メカニズムの解明に、時間分解能および空間分解能の観点から世界最先進の超高速度ビデオカメラシステムである「アルゴンパルスレーザー連動超高速度ビデオカメラ」を使用していることも、当研究室の特徴です。

このように、誰もやったことがないことを明らかにしていく過程が研究の面白さであり、それはまさしくめくるめく世界です。私は、研究で成功するために大事なことが2つあると思っています。一つは、もう一度やってみるという精神です。もうダメだと思ったとき、最後にもう一回だけやってみる。その粘り強さが、今まで定説だとされていたものを打ち破るカギだと思います。最近頭のいい学生が多く、やる前から考え過ぎて、実際にやることを避ける傾向にあるように思いますが、研究は、まずやってみることが大切です。もう一つは、憧れを持つことです。私の場合、東京大学で矢川先生に出会い、少しでも近づきたいという思いから研鑽を重ねた結果、世界に認められる研究や新たな発見につながったわけですから。目標は、自分を前進させる力になります。総合学術交流棟ロビーに掲げられている『常に気力と体力を』の言葉。この言葉の通り、学ぶために一番必要なものは、気持ちの強さだと信じます。ともかく、気力が頭脳と体を動かします。



海×科学=広い視野を育てる

海の上、船の中でしか学べないものがある

附属練習船深江丸 船長 / 准教授
矢野 吉治

海事科学研究科附属練習船深江丸(ふかえまる)は1987年10月に岡山県の三井造船株式会社玉野事業所で竣工した、総トン数449トン、全長50メートルの中型練習船です。学部学生の実習教育の他、さまざまな研究のための活動スペースを確保しているために大学の練習船ならではの独特の船型をしています。

深江丸の特徴のひとつにデータ処理室があります。搭載するさまざまな航海計器や気象観測機器、船の位置やエンジン関連の情報など、毎秒約1200項目におよぶデータを船内LANと無線LANで集約し、実習や実験、研究などの効率化を図っています。また、深江丸で独自に開発し運用中の統合化航海情報表示システム(X-Navi)は、航海の場面ごとに必要な情報を船内各所にリアルタイムに提供しています。この機能のひとつである『錨泊監視システム』は、海底の錨と船の位置関係をパソコン上で可視化すると同時に、風に対して船を海底につなぎ止める錨と錨鎖の力をリアルタイムに理論推算し、安全な錨泊を維持するための情報を提供します。2009年に特許登録された世界で唯一の斬新な監視システムです。その他、船の前には横移動装置を装備し、また、推進器には可変ピッチプロペラを採用するなど、教育や研究に必要な特色ある設備を備えています。

深江丸による学内船舶実習は、学部の全学生を対象に2泊3日から3泊4日で実施されます。朝は6時半の起床・点呼に続く体操で始業し、航海当直を中心とした実習、船内講義や調査など、学生は実習と並行して多くの課題をこなします。実習以外では、学内外の研究者や学生を対象にした研究専用の航海、水線下船底部に塗装した世界最高水準の低摩擦型防汚塗料による船舶の省エネルギー化と低炭素化に向けた研究、大規模災害発生時に海上ルートを活用した医療支援や電力供給などの実船検



証、小中高生や一般を対象にした校外学習や海事体験の他、大学、他学部、海事関連企業や団体の船舶研修など、多様化する社会の要望に対応しています。

船の現場は知識だけで対処できず、場数と経験がものをいいます。即断を迫られる場面も多く、練習船は座学では身に付かない技(わざ)や勘を体得できる最良の舞台です。船上では学生のみならず、乗組員の一人ひとりが安全な航海のための重要な歯車であり、ひとつが欠けても物事はうまく進みません。一人のミスが全員の命を危険にさらすこともあり、まさしく運命共同体です。船上ではチームワークが何よりも重要であり、実習を通じて慣海性や人への思いやりの心を育み、自己を研鑽しながら、実社会が必要とするリーダーシップなどの資質を涵養します。深江丸は人間教育の道場でもあるのです。

私は高校時代、当時日本に2つしかない商船大学の存在を知り大きな憧れを抱きました。誰もができないことに挑戦し、大きな仕事に携わりたいという小さな「夢」がいつしか芽生え、その夢があったからこそ今の自分があります。大小にかかわらず、自分の夢と志を持つことが肝要です。社会のどの分野で活躍したいのかという明確な目標を持てば学ぶ姿勢にも筋道が立ちます。また、私自身実感していますが、学生時代は一生涯の仲間や無二の親友にめぐり会える貴重なひとときです。海事社会は同窓意識や仲間意識が非常に強く、人の絆と連携が確立された世界です。卒業後はいろいろな場面で、先輩や後輩、仲間や親友とともに人生を謳歌できる時が必ずやってきます。

深江丸による航海を通じて海と船や人に接し、大自然に対して畏敬の念を持ち、うぬぼれやおごりを持たず、常に広い視野で冷静に物事を見渡せる人間像を目指してください。いつの日か、そんな皆さんに必ずや出会えることを確信し、切望しています。



矢野 吉治

【略歴】1979年 神戸商船大学商船学部航海学科卒業 / 1979年10月 運輸省航海訓練所に入所。汽船練習船・帆船練習船に運輸教官兼航海士として乗船勤務 / 1984年より2年間、神戸商船大学に助手として出向 / 1988年12月 一級海技士取得 / 1994年4月～1997年3月 運輸省四国運輸局船員部海技試験官 / 1997年4月より現職

卒業生の声

大学院での研究をレーザーの 応用開発に活かしています

細分化された専門を学ぶ前に、幅広い分野についての総合力を養いたくて海事科学部に入学しました。様々な教科を学ぶ中で量子ビーム応用に関わる研究を選択し、2011年4月から博士後期課程に進学します。

現在は大学院で研究を行うとともに、日本原子力研究開発機構関西光科学研究所の特別研究生として、世界最高クラスの高強度レーザー装置を用いたレーザー駆動粒子線の研究も行っています。これは将来、がん治療用小型加速器に応用できます。大学院で研究している放射線検出器を用いて発生する粒子を評価し、その結果をフィードバックすることで、更に高いエネルギーの粒子発生を目指しています。

神戸大学大学院海事科学研究科
金崎 真聡 (2009年卒)



社会人としての総合力を高める 海事科学部のユニークな学び

「船長さんになりたかったの?」「いえ、そうではなくて…」

海事科学部卒業という話の流れで必ずと言っていいほど、交わされる会話です。確かに、船長への道を進みたい人もこの学部にはもちろんいます。でも、私は船長にはまったく興味はありませんでした。その証拠に今私はアナウンサーという職に就いています。

だけど、海事科学部で学んだことを無駄だったとは思いません。乗船実習では、知識だけでなく協調性、判断力など、社会人になって必要になってくることを学びました。今でも、マイナーですがユニークなこの学部を誇りに思います。

株式会社毎日放送
斉藤 裕美 (2008年卒)



総合的な考え方が身につく 自分の視野が広がる学科

入学前、海事科学部は他の大学にはない名称の学部だったので不安と同時に自分にしかできない何かができそうな気持ちをもっていました。入学後は船を一つのプラントシステムという観点で見るとを学びました。学部における基礎的な学問の習得で興味を持った分野についての専門性を深めるために大学院に進学しました。誰も行ったことのない研究を進め、自分の力で問題を洗い出すとともにその解決法を探し出していくことで、物事に対する総合的な考え方などが身に付き、それが今の仕事でも役に立っていると思います。

海事科学部は、総合的な視野を持ち幅広い開発・遂行能力を身に付けることが可能な学部だと思います。

三井造船株式会社
瀧上 孝 (2010年院修了)



主な就職先

※順不同

海事科学部卒業生 (1～3期生)

海運	日本郵船(株)、(株)商船三井、飯野海運(株)、川崎汽船(株)、新日本石油タンカー(株)、第一中央汽船(株)、新和海運(株)
建設・海洋開発	日本サルヴェージ(株)、(株)グローバルオーシャンディベロップメント、日本海洋掘削(株)、日本海洋事業(株)
倉庫・物流	(株)住友倉庫、山九(株)、(株)上組、三菱倉庫(株)、三菱電機ロジスティクス(株)、伊藤忠ロジスティクス(株)、日本通運(株)、(株)日立物流、東芝ロジスティクス(株)、パナソニックロジスティクス(株)、三井倉庫(株)
商事・卸売り	川重商事(株)、ヤンセンファーマ(株)、双日(株)、全日空商事(株)、住金物産(株)
情報・通信・出版	(株)アイル、凸版印刷(株)、レンゴー(株)、(株)NTTデータ、(株)東洋信号通信社、(株)WOWOW
金融・保険	東京海上日動火災保険(株)、住友生命保険相互会社、(株)三井住友銀行、明治安田生命保険相互会社、(株)損害保険ジャパン、(株)三菱東京UFJ銀行、日本生命保険相互会社
不動産業・サービス	住友不動産販売(株)、ホテルグリーンプラザ、司法書士事務所、(株)毎日放送
輸送機器	佐世保重工業(株)、近畿車輛(株)、本田技研工業(株)、スズキ(株)、三井造船(株)、ダイハツ工業(株)、ダイハツディーゼル(株)、川崎造船(株)、マツダ(株)、(株)デンソー、いすゞ自動車(株)、三菱重工業(株)
機械・精密機器・プラント	三菱電機エンジニアリング(株)、(株)中北製作所、カワサキプラントシステムズ(株)、ヤンマー(株)、(株)ダイフク、川崎重工業(株)、日本ビラー工業(株)
電機	三菱電機(株)、寺崎電機産業(株)、スタンレー電気(株)、シャープ(株)、(株)日立製作所、(株)東芝、三洋電機(株)、三菱重工業(株)、ウシオ電機(株)、古野電気(株)
鉄鋼・化学・原子力	住友化学(株)、日本イーライリリー(株)、原燃輸送(株)
官公庁・その他	(独)航海訓練所、海技大学校、国土交通省、(財)日本海事協会、ロイド船級協会、(株)野村総合研究所

大学院海事科学研究科 (1期生)

建設・海洋開発	清水建設(株)、(株)日建設計、(独)海洋研究開発機構
商事・卸売り	(株)NTTロジスコ、JFE 商事(株)
情報・サービス	(株)富士通関西システムズ、(株)CSK ホールディングス、(株)出版文化社、(株)ナムコ
輸送機器	川崎重工業(株)、三井造船(株)、ユニバーサル造船(株)、三井造船(株)、スズキ(株)、(株)デンソー、三菱自動車(株)、ダイハツ工業(株)
機械・精密機器・プラント	カワサキプラントシステムズ(株)、共栄ハイドロリック(株)、三菱重工業(株)、(株)クボタ、ダイキン工業(株)、(株)神戸製鋼所
電機	三菱電機(株)、パナソニック(株)
鉄鋼・化学・原子力	日東電工(株)、中国塗料(株)、(株)資生堂、日本合成化学工業(株)、(株)MORESCO、ユニチカ(株)、古河電気工業(株)、(独)日本原子力研究開発機構、(独)原子力安全基盤機構

海を科学することで、オンリーワンの人材となれ。
活躍のフィールドは、海を越え、世界へ。

この特集は次の教員が担当しました。

野村 昌孝 准教授、山内 知也 教授

(答え：海×科学=海事科学部)

「第2回 卒業生のビジネスリーダーとの懇談会」を開催しました

経済界の第一線で活躍する卒業生と学長・理事が集い、大学の現状や課題、将来像を話し合う「神戸大学卒業のビジネスリーダーとの懇談会」を12月1日、東京・丸の内の神戸大学東京六甲クラブで開催しました。

卒業生との絆を強めるとともに、ビジネス体験に裏打ちされた貴重な提言をいただこうと、昨年に続き企画したものです。上場企業の役員のうち、各社ホームページ等で本学卒業生と確認できた約520人を招待し、首都圏を中心に全国から38人が出席。卒業生の集いらしく、率直で温かい指摘や激励が続きました。

最初に福田学長が、平成21年4月以降の本学のトピックスである「関西バイオメディカルクラスター」「システム情報学研究科の設置」「EU大統領来学講演」「京都大・大阪大・神戸大関西活性化シンポジウム」「神戸大学ブリュッセル事務所開設」「神戸大学統合研究拠点の設置」「神戸大学・中国地質大学合同登山隊未踏峰登頂」等について紹介するとともに「世界トップクラスの大学を目指して神戸大学のブランド力をいかに高めるかを意識して大学運営に取り組みたい」と決意を述べました。続いて、竹園理事（財務担当）が本学全体の財務状況を説明しました。

この後、自由に意見交換する懇談会に移りました。参加者からは「国際感覚を備え海外で活躍できる人材の育成を」「国際港神戸にある大学として独自性を」「きらりと光るところを見つけて集中的に投資していただきたい」「メディアの活用を積極的に」「東京において神戸大学の宣伝戦略が必要」など、多くの提言をいただきました。

これを受け、福田学長は、貴重な提言に対してのお礼と「思い切った大学運営を行いたい」と決意を述べました。最後に、神戸大学学友会の高崎正弘会長が、「今、大学は大変なときである。是非、母校を応援していただきたい」と呼びかけました。

この懇談会は、今後も継続的に開催することとしています。
(社会連携課)



育友会の2010年度 地区支部会が開かれました

育友会の地区支部会は、神戸大学との連携強化を図り、会員皆様のご要望などを神戸大学運営に反映し社会のニーズに対応した神戸大学づくりを目的に、2005年度から「東日本」、「中部」及び「中国・四国・九州」の3地区で開催しています。

2010年度は、昨年ご出席された会員の方から「会議の時間を長くして欲しい」などの多数のご意見により、会議・懇親会と合わせて約3時間の開催としました。

トップをきって9月5日、神戸大学「東京オフィス」(東京都千代田区)において開催した東日本地区支部会には東京近郊都県より会員18人の参加がありました。続いて9月20日に名古屋市内のホテルにて開催した中部地区支部会には会員46人の参加があり、遠くは石川県等から来られた方もありました。そして2010年度の最後として、10月3日広島市内のホテルで中国・四国・九州地区支部会を開催しました。遠くは鹿児島県など九州・四国各地等から会員約70人の参加があり、熱心な意見交換の場となりました。

三会場では、各地区支部長の司会進行により、東日本地区支部会では田中康秀副学長から、中部地区及び中国・四国・九州地区支部会では石田廣史副学長から「神戸大学の概要・教育・学生生活について」の講話があり、内田正博キャリアセンター

長からは「神戸大学の就職支援の現状・就職状況について」の説明がありました。

引き続き行われた懇親会は時間を大幅に延長して、大学関係者を囲み忌憚のない意見交換や会員間での親睦も図られ、神戸大学と育友会の連携がますます強化される契機となるなど、所期の目的を達成し終了しました。熱心な会員の方から、「もう少し時間をとって説明して欲しい」「就職活動についてもっと詳しい話が聞きたい」などの意見がだされ、今後の支部会開催の参考にしたいと思います。

■神戸大学育友会への入会について(お願い)

本会は、保護者の皆様から納めていただいた会費により、学生の課外活動の援助や神戸大学の発展に寄与するための各種事業を行っています。多数の方々のご協力に感謝いたしますとともに、納めていただいた会費につきましては、次の事業目的を達成するために有効に使わせていただきますので、趣旨ご理解のうえ、まだご入会いただいていない方は是非ともご入会いただきますよう、よろしく願いいたします。

1. 事業目的

- (1)教育上必要な学生関係行事や課外活動の援助などを行い、充実した学生生活が営まれるよう種々の事業を行う。
- (2)学生生活に有益な大学の情報を提供するとともに、会員相互の親睦を図る。

2. 会費の納入等

会費の納入等の詳細は、次へご連絡願います。

神戸大学学務部育友会担当 電話：078-803-5213



先輩登場 Alumni Corner

神戸大学文理学部文科に在学して

石川県立歴史博物館館長
城西国際大学客員教授／滋賀県立大学名誉教授

脇田 晴子さん (1956年文学部卒)



私が新制の神戸大学文理学部文科（卒業時は文学部）に入学したのは1952年（昭和27）で、卒業は4年後の1956年（昭和31）である。はや55年の歳月が経っている。やはり月並みながら、うたた今昔の感に打たれるものがある。いろいろの事があって、母校とは疎遠になってしまっていた。また、親が死んでからは故郷の西宮にも自然に足が遠のいてしまっている。

今度の受章ということがあって、神戸大学の先輩・後輩、同窓生からも手紙がきたり、このような随筆も書かねばならないことになって、これが文化勲章の効果かも知れないと思った。

私が当時の文理学部文科（後の文学部）に入ったのは、短大か女子大だ、という親を兄が説得してくれて、とにかく当時の御影学舎が、家から30分で行けるといってことでやっと行かしてもらったのに過ぎない。たしかに9時に始まる授業に家を9時に出て間に合う授業があったのだから、とにかく通学にエネルギーを費やさずに済んだ。そして短大だとがんばる母親とは、洋裁塾と掛け持ちするというで折り合いを付けた。だから、洋裁塾のある日は、学校を休んだし、成績は散々であった。しかしその頃は、アルバイトが忙しくて顔を見たこともない

先輩も居たから、私も平気だった。

しかし、専門課程に進むと、好きな歴史の授業ばかりだから、がぜん面白くなって、今度は勉強をしすぎて、病気になるとう事態と成った。今まで勉強をしないで、適当にやっていた女の子が、俄かにやりだしたので、兄姉もびっくり、親はもうそろそろ勉強は止めにして、結婚のことを考えてくれ、と言いだした。天の邪鬼な子だ、勉強をせねば成らないときにはしないで、もうそろそろ結婚を考えねばならないときに、勉強しだすなんてといわれた。

そんななかで書いた卒論が良いと云うことになって、大学から出ていた雑誌に載せてもらい、あちこちに送ったら、女子が書いた論文は初めてに近かったので、続けてやってほしいと名高い研究者の先生たちから激励文をもらってびっくりした。すっかり舞い上がってしまった私は、大学院に行きたいといって、両親はじめ家の皆に反対されたが、結局、京大の大学院に行った。「女性では無理」だと就職を断られるなど苦労も多かった。「聞くも涙」の物語もあるが、とにかく、好きな歴史学を一生、続けることができて幸せだったと思っている。

脇田晴子さんは、2010年に文化勲章を受章されました。本学卒業生の文化勲章受章者は、はじめてのことです。本学を卒業後、京都大学大学院に進まれ、1963年博士課程を修了、主に日本中世史の分野で活躍され、商業史や都市史、女性史、芸能史、被差別部落史の研究で大きな業績を上げられ、また、石見銀山の世界遺産登録にも尽力されました。

東京オフィスをリニューアル

「神戸大学東京オフィス」は、大学が直接管理運営する施設として、平成23年1月7日から、帝国劇場ビル地下1階に整備・拡充してリニューアルしました。卒業生スタッフが常駐していますので、就職活動などで東京にお越しの際はぜひお立ち寄りください。また、情報収集や休憩場所としてご利用ください。

- 開所時間：月～金 9:00～19:00（土日祝日を除く）
- 所長：小西 順（昭和44年経済学部卒）
- 住所：東京都千代田区丸の内3-1-1帝国劇場ビル地下1階
- 電話：03-6269-9130
- FAX：03-3214-4227
- Email：tokyo-office@org.kobe-u.ac.jp
- パソコン（3台）・プリンター・コピーなど利用できます。
- スーツに着替えられる嬉しいフィッティングスペース有



（東京オフィスの運営には、皆様のご支援による「神戸大学基金」の一部が活用されています。）

第5回ホームカミングデイを開催しました



第5回ホームカミングデイが2010年10月30日、六甲台キャンパスをメイン会場に開かれました。卒業生が母校に集い、いつものように旧交を温め合うとともに、出迎えた在大学生や教職員と世代を超えて交流しました。

この日は台風14号の影響が心配されましたが、早朝には雨が上がり、構内では講演会や演奏会、落語会や模擬店など楽しい催しが開かれました。今年も留学生ホームカミングデイと合同開催になり、日本で働く元留学生のほか、シンガポールとマレーシアから同窓会代表が参加しました。

幕開けの記念式典は、午前10時半から出光佐三記念六甲台講堂で開かれました(写真上)。冒頭の挨拶で福田秀樹学長は、システム情報学研究科の設置やブリュッセル・オフィスの開設など大学の現況を報告したうえで、「みなさまのご協力をいただき、新たな飛躍に全力を挙げる」などと決意を述べました。次いで高崎正弘・学友会会長は「きずな」の大切さを強調し、母校を核としたつながりを更に強めるよう呼びかけました。

この後、坂井信也・阪神電鉄社長(1970年経済学部卒)が講演。学生時代の思い出や阪神なんば線の建設、さらには阪神タイガースの話題などを披露しました。最後に神戸大学交響楽団が「美しき青きドナウ」などを演奏し、式典を締めくくりました。

午後からはアカデミア館1階食堂でティーパーティーを開催。グリークラブや応援団の歌声を聞きながら歓談しました。この後は学部ごとの企画に移り、キャンパスツアーや講演会、落語会を楽しみました。

今回はJR西日本の協力をいただき、通学駅の六甲道駅が卒業生歓迎の玄関になりました。電車到着のたびに歓迎のアナウ

ンスがホームに流れ、構内には歓迎ポスターを張り巡らしました。I C O C Aキャラクター「カモノハシのイコちゃん」着ぐるみが、「おかえりなさい」のたすきをかけて出迎え(写真下)、神戸大学生協との記念コラボ・グッズ「イコちゃん合格祈願プレート」などを販売しました。

(社会連携課)



ホームカミングデイの様子は、下記HPをご覧ください。
(<http://www.kobe-u.ac.jp/alumni/HCD.htm>)

2011年度のホームカミングデイは、留学生ホームカミングデイと合同で10月29日(土)に開催する予定です。

7回目を迎えた「神戸大学留学生ホームカミングデイ」

今年も神戸大学留学生ホームカミングデイが2010年10月30日、百年記念館六甲ホールで開催されました。海外・国内からの卒業留学生をはじめ現役留学生と、大学関係者、地域の方々など300人を超える参加がありました。2002年から始まった本会は「人・知・還流」を理念に、本学で学ぶ留学生のフォローアップ支援事業の一つのプログラムとして位置づけられ、大学と在学及び卒業留学生の連帯感を高める趣旨で行われるものです。このような行事は教育的には国際的に通用する人材の育成また大学の国際的取り組みとしての海外ネットワークの拡充にも大きく貢献するものです。

毎年、趣旨に沿ったテーマを決めて行います。2007年「先輩によるグローバルキャリアセミナー」、2008年「先輩との対談ようこそ！先輩神戸大学へ」2009年は「ようこそみなさん！神戸大学へ～感謝の時」2010年「お帰りなさい！神戸大学へ～卒業留学生と恩師との対談」のように、留学生との絆を深めるテーマを取り上げています。一方、帰国した卒業留学生を中心に神戸大学の海外ネットワークを拡大していく「海外ネットワーク紹介」のセッションも毎年設けており、それにむけて海外同窓会整備事業も行っています。自



ベトナム留学生会による伝統踊り

ら同窓会を立ち上げた韓国、台湾に続き、日本国内をはじめ、中国、ベトナム、インドネシア、タイ、マレーシア、シンガポールにも同窓会が続々と発足し、ホームカミングデイを通してそれぞれの同窓会の様子が披露されてきました。ホームカミングデイはただ留学生だけのイベントに留まらず、それに加えて、「KUワールドフェスタ」と名づけて、知り合う学びあう世界をコンセプトに各国留学生会による文化交流スペースが提供され、大学関係者や近隣の住民との交流の場としても重要な役割を果たしています。

留学生ホームカミングデイは、大学がめざす国際性豊かな教育を発展させ、世界に通用する神戸大学ブランド力を高めると同時にお互いの絆を確認し合うものとして今後も大いに期待していきたいと思います。

(留学生センター教授 朴 鍾祐)



全体記念集合写真

「マレーシア神戸大学同窓会」発足

留学生センターは海外同窓会の整備を進めてきましたが、その特徴のひとつに、留学生のみならず、日本人の卒業・修生も巻き込んだネットワークを作ってきたことがあげられましょう。マレーシア神戸大学同窓会もその例にならい、マレーシア人にとっては日本で学んだ利点をより活用する機会を増やし、日本人にとっては現地でのネットワークをより強力に作り上げることができると期待されています。

さて、「マレーシア神戸大学同窓会」の発足会が2010年9月25日に、クアラルンプールで実施され、本学からは、中村千春理事・国際交流担当副学長をはじめ、留学生センターや国際交流推進本部の教員が参加しました。また、来賓のマラヤ大学日本政府派遣教師団、帝京マレーシア日本語学院の方々も含め、関係者28名が参加する活気のある会となりました。マレーシアは、韓国、台湾、中国、ベトナム、インドネシア、タイに引き続き、7番目の拠点となりましたが、これで、100人以上の卒業留学生がいる国すべてに海外同窓会が揃ったことになります。

マレーシアでの同窓会は、昨年12月より約1年間の準備を経て発足したのですが、その間、常に中心的にリーダーシップを発揮されたLoong KokHong氏(経営学研究科修了)が会長に選出されました。役員は、Loong会長ともに同窓会設立に献身的に取り組まれた宮原啓造氏(農学研究科修了)以外にも、将来、同窓会ネットワークと神戸大学とが大いに連携して産学協働を進め

ていこうという同窓会の目的に沿って7名が選出されました。

もちろん、同窓会は、戦略的な目的からだけなるのではなく、同窓生と繋がることによってしばしの休息を提供する場でもあり、ゴルフや思い出話にふける懇親会での光景を見るにつけ、発足したすぐに打ち解けた雰囲気があるのは、同窓生ならではのネットワークの力であるのだと改めて感じさせられました。

今回、マレーシアでの発足会に続き、歴史あるシンガポールの同窓会にも立ち寄りしましたが、2010年10月の留学生ホームカミングデイで「シンガポール神戸大学同窓会」として、改めて本学の海外拠点として活動していく運びとなりました。

(留学生センター教授 河合成雄)



マレーシア神戸大学同窓会発足会

保健管理センターだより



はじめませんか ^{こころ からだ}心と身体の健康づくり・・・ 保健管理センター THPルームが Open !

保健管理センターTHPルームが Open します(6月予定)。健康運動指導員(インストラクター)にメニューを作成してもらってジムマシーンによる筋力トレーニングに励むもよし、ストレッチエクササイズやエアロビクスプログラムに参加するのもよし。メタボ対策にもお勧めです。

健康づくり運動“THP”

“THP”はトータル・ヘルスプロモーションプラン(Total Health promotion Plan)の略称で、昭和63(1988)年に厚生労働省が策定した「事業所における労働者の健康保持増進のための指針」に基づいた総合的な「心と身体の健康づくり運動」のことです。もともとは働く人の健康づくりをめざしたのですが、神戸大学では学生の皆さんも含めた全ての方々の健康づくりを応援します(注1)。

増え続ける健康診断での有所見率

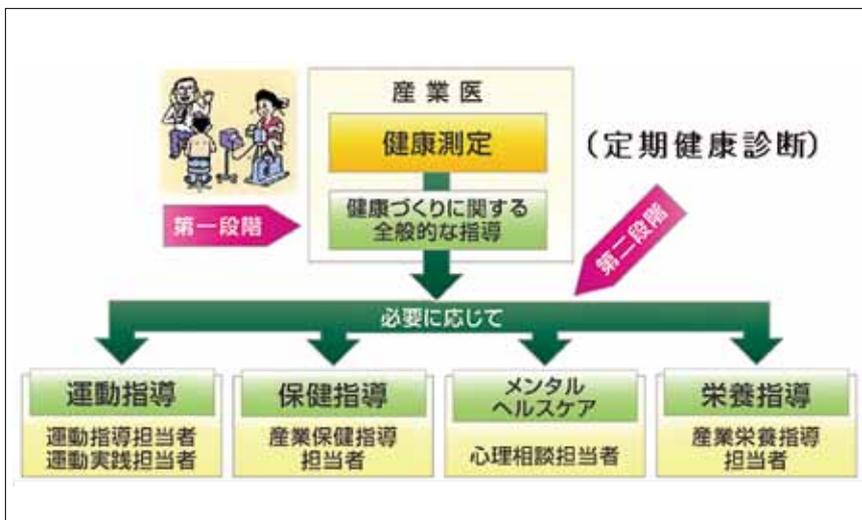
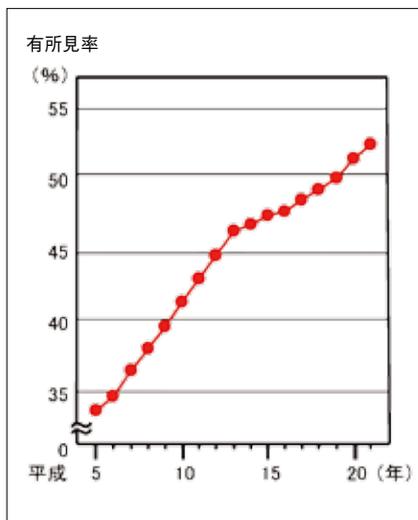
定期健康診断で異常を指摘される方の率(有所見率)は毎年増加し、全国統計でも働く人の半数以上が何らかの健康上の問題を抱えています(図1)。また、一億総ストレス社会と言われるように、現代日本では約60%の人がストレスを感じているとされています。心と身体は不可分ですから身体の調子が悪いと気分も塞ぎますし、ストレスが過度になると身体の変調をきたします。

早期発見・早期治療から発症予防へ

THPでは健康診断の結果をもとに、必要に応じた保健指導や栄養指導、運動指導、メンタルヘルスケアをおこない、病気の予防に繋がります(図2)。これは、早期発見・早期治療のための健康診断から、発症予防のための健康診断へと一歩進めたものです。保健管理センターではこれまでも、内科医や看護師による保健指導・栄養指導や、精神神経科医・カウンセラーによるメンタルヘルスケアを進めてきましたが、THPルームの稼働によって健康運動指導員(インストラクター)による運動指導が加わり、従前よりも具体的な健康づくり運動を展開できるようになります。メタボになってしまっている方も、予備群の方も、今は健康な方も、対策は早めの方が良いのです。

生活習慣病・メタボリックシンドロームにならないために

心疾患、脳卒中、高血圧症、高脂血症、糖尿病、肥満といった生活習慣病やメタボリックシンドロームへの対策は食事・運動療法が基本です。お薬が必要な方でも食



(図1) 定期健康診断における有所見率の推移 (参考文献2より改変)

(図2) THP (Total Health promotion Plan) における「心と身体の健康づくり」の流れ (参考文献3より改変)

事・運動療法に取り組むことによって服薬量を減らしたり、場合によってはお薬を飲まなくてもよい状態にまで改善することができます。また、若い頃から食生活に気を付けて規則正しい生活と適度な運動をしていると、生活習慣病やメタボリックシンドロームにならなくて済みます。学生の皆さんにとっては、大学時代の毎日の生活そのものが、将来の生活習慣病やメタボリックシンドロームへの鍵を握っているのです。

軽いメニューから筋力アップまで

THPルームでは健康運動指導員(インストラクター)が一人一人に合った運動メニューを作成します。生活習慣病やメタボリックシンドロームになってしまっている方では軽いメニューの継続が大切で、健康運動指導員(インストラクター)と相談しながら体をほぐすことから始めてみられてはどうでしょう。日常の運動についてのアドバイスを受けることもできます(注2)。健康で筋力アップを図りたい方にはジムマシンを用いた段階的に強度の高いメニューも。ヒップアブダクション・アダクション、レッグエクステンション、チェストプレス、アークトレーナー、トレッドミル等のジムマシンを用意しています(図3)。



(図3) 保健管理センターTHPルーム

THPルームの利用には・・・

THPルームを利用していただくには心電図検査を含む健康診断で、運動をしても支障がないという結果が出ていることが必要です。また、ジムマシンの利用のためには、健康運動指導員(トレーナー)による操作講習を受けていただきます。操作講習や特殊プログラム(ストレッチエクササイズ、エアロビクスプログラムなど)の詳細は決まりしだい保健管理センターホームページや学内広報等でお知らせします。個人でもグループでも参加いただけます。一人一人が心と身体の健康づくりに励み、将来の夢に向かって元気に毎日を送られることを願っています。

(注1) THPでは各事業者(例えば神戸大学)に実施の主体があります。働く人は年齢にかかわらず対象となり、予防の段階から生活習慣病やメタボリックシンドロームに取り組みます。一方、平成20(2008)年から始まった「特定健康診査・特定保健指導(いわゆる「メタボ健診」)は個人が加入している医療保険の保険者に実施の主体と義務があり、「高齢者の医療の確保に関する法律(高齢者医療確保法)」に基づいて、40～74歳の被保険者と被扶養者を対象として、メタボリックシンドロームのハイリスク者に対してリスクの度合いに応じた保健指導が行われます。特定健康診査の受診率や特定保健指導の実施率に応じて、医療保険者から後期高齢者医療制度に支払わなければならない支援金の額が10%を限度として増減されることになっています。

(注2) 日常生活の中での運動について、運動強度「メッツ(METs)」という考え方があります。その運動が安静時の消費エネルギー(基礎代謝)の何倍の消費エネルギーに相当するかという値です。値が高いほど激しい運動ということになります。継続的な健康作りに適した運動強度は3メッツ以上6メッツ未満とされています。例えば普通に歩くことは3メッツ、散歩や自転車は4メッツです。また、運動量を表す指標として「エクササイズ」という単位が提唱され、運動強度×時間で計算します。例えば普通に2時間歩けば3(メッツ)×2(時間)=6エクササイズとなります。生活習慣病の予防には1週間に23エクササイズの活発な(3メッツ以上の)身体活動が必要とされています。例えば、1週間に歩行を380分、軽い筋力トレーニングを80分行なえば、目標となる23エクササイズに到達します。エクササイズの値に体重の1.05倍を掛けると消費エネルギーも計算できます。消費エネルギー(kCal)=体重(kg)×1.05×運動強度(メッツ)×時間です。

参考

1. 事業場における労働者の健康保持増進のための指針(昭和63年9月1日,平成9年2月3日,平成19年11月30日)
2. 厚生労働省,中央労働災害防止協会編,働く人の心とからだの健康づくりパンフレット
3. 中央労働災害防止協会ホームページ,健康づくり(THP)・メンタルヘルスクア(<http://www.jisha.or.jp/health/thp/index.html>)
4. 厚生労働省 運動所要量・運動指針の策定検討会編,健康づくりのための運動指針 2006～生活習慣病予防のために～<エクササイズガイド2006>

保健管理センターは・・・

六甲台キャンパス(本部管理棟2階)と深江キャンパス、楠キャンパスにあり、毎年の健康診断やその結果に基づく再検査・精密検査をはじめ、日常の救急処置、健康相談(「からだの健康相談」、「こころの健康相談」)、保健指導、栄養指導、健康教育、産業医活動、調査研究活動などを通じて、学生や職員の皆さんの健康をサポートしています。また、名谷キャンパスには「からだの健康相談」のための保健管理室と「こころの健康相談」室が設置されています。

● お問い合わせ

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
 [神戸大学保健管理センター] ☎ 078-803-5245
 〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1
 [神戸大学保健管理センター深江分室] ☎ 078-431-6232
 〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-1
 [神戸大学保健管理センター楠分室] ☎ 078-382-5006

● 保健管理センターだより 78

(神戸大学広報誌「六甲ひろば」から引き続き連載)
 保健管理センターの詳細につきましては、
 保健管理センターホームページでも案内しています。
<http://www.kobe-u.ac.jp/medicalc/index-j.html>

神戸大学のキャンパス〈その2〉

深江地区

神戸大学キャンパスは4つの地区に分かれている。

いずれも神戸市内にあり、六甲台地区、楠地区、名谷地区、深江地区と称される。

今回はその一つ、深江地区を取り上げてみたい。

■ 海に開かれたキャンパス

深江地区は、学内唯一の海に面したキャンパスであり、大学院海事科学研究科・海事科学部がある。学内で2番目に広い土地面積10万8,256㎡（白鷗寮含む）を有し、大阪湾に接する構内南端のポンド（繋船池）には練習船「深江丸」が投錨する。東灘区深江南町5丁目に位置し、最寄りの阪神電鉄深江駅までは徒歩約10分の距離である。国立総合大学には希有な海に開かれたキャンパスを持ち、新たな知見を切り開く豊かな独創性と世界を見据えた学術的な国際交流の拠点たらしめる可能性に満ちている。

■ 誕生

深江地区の歴史の始まりは90有余年前にさかのぼる。当時ここは兵庫県武庫郡本庄村字深江と称され、西国街道と大阪湾に挟まれた低地に果樹園・畑地・草むらが広がり、南縁はゆるやかな砂浜となっていた。1917（大正6）年、海事科学部の源流である私立川崎商船学校がこの地に誕生。校地選定の際には大阪府浜寺から兵庫県明石に至る海岸線が実地踏査され、大阪湾内で最も内陸に湾入した白砂青松の海岸である深江の地に白羽の矢が立った。翌年3月に現在の総合学術交流棟北側付近に南館が竣工、4月に授業を開始した。1919（大正8）年夏には現在の東門付近に校長室・教官室・事務室・講堂・教室等が入る2階建ての本館が竣工、3年後この建物に气象台が付設されて通称「時計台」と呼ばれるシンボリックな外観ができていく。これら赤レンガ造りのモダンな建物は、戦争で被爆焼失するまで偉容を誇った。なお、1920（大正9）年に私立川崎商船学校は廃止となり、校地及び施設一切を継承して官立神戸高等商船学校が創立された。創立直後には土地総坪数10,903.23坪（約



神戸高等商船学校の本館（時計台）（大正後期）

3万6,000㎡）と小規模であった校地は、1921（大正10）年西宮の辰馬悦蔵（3代）から土地約2,000坪の寄付を受けるなど大正年間で約7,000坪（約2万3,100㎡）増加、校舎や寄宿舎が増設され整備が進められた。

■ 旧神戸高等商船学校校舎の壊滅と戦後復興

戦時下の1945（昭和20）年5月11日及び8月7日の神戸大空襲において、隣接する川西航空機甲南製作所（現新明和工業）を狙って大量に投下された爆弾が、当時海技専門学院となっていた校内にも多数落下、大正以来の由緒ある旧神戸高等商船学校の施設はほとんど壊滅した。

戦後まもなく戦災で瓦礫と化した校地・校舎の整備改修が進められたが、第二阪神国道（二級国道173号大阪神戸線。現在の国道43号線）の建設により校地が南北に分断されるという問題が発生。この代償として隣接の川西航空機の土地約8,100坪を海技専門学院岸和田分教場敷地と交換入手し、1952（昭和27）年新制国立大学として神戸商船大学が誕生する。1954（昭和29）年大学本館（現1号館）が完成、旧神戸高等商船学校時代の時計台を偲んで建物の一部を高層とした。

2003（平成15）年本学と神戸商船大学との統合により海事科学部が誕生し、本学の新たなキャンパスとして深江地区が加わった。こうして深江の地に新たな歴史が刻まれることとなったのである。

（神戸大学附属図書館大学文書史料室講師 野呂理栄子）



神戸高等商船学校全景（昭和初期）

神戸大学学歌

安水稔和 作詩
中村茂隆 作曲

も え る や ま な ー み ゆ く く ー も ー
に と ぶ と り を お う か け ー て く ー
る か が や く ひ と み は ず む む ね
ま ぶ し い ひ か り に な に を は な と う と も に
う た う こ う べ こ う べ こ ー
の お か の う え こ こ ろ あ ら た に

- 一、萌える山並み 行く雲に
飛ぶ鳥を追う 駆けてくる
輝やく瞳 はずむ胸
まぶしい光に なにを放とう
ともに歌う 神戸 神戸
この丘のうえ 心あらたに
- 二、そよぐ葉叢（はむれ）に 開く花
木洩れ日の中 輪になって
揺れる言の葉 遠い夢
流れる水に なにを映そう
ともに語る 神戸 神戸
この丘のうえ おもい激しく
- 三、風渡る街 光る海
はてしない空 手をあげる
溢れる願い 熱い明日
息づく世界に なにを告げよう
ともに生きる 神戸 神戸
この丘のうえ 愛あざやかに

神戸大学学歌は、1992（平成4）年神戸大学創立90周年を機に制作された。作詞は詩人の安水稔和氏（昭和29年文学部卒）、作曲は中村茂隆氏（当時教育学部教授）。清き神戸の地で朗らかに息づく学生の姿をよく映し出している。

（神戸大学附属図書館大学文書史料室）



<http://www.kobe-u.ac.jp>

神戸大学広報室 発行 2011年 4月 1日

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 TEL.078-803-5022 E-mail : ppr-kouhousitsu@office.kobe-u.ac.jp